

富山高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	国語表現	
科目基礎情報						
科目番号	0216		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子情報工学科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』 (三省堂)					
担当教員	近藤 周吾					
到達目標						
「JABEE基準 1 (2) 」 (f) これまでの総合国語の知識を生かしながら、書くことを中心とした国語表現の能力を高めることを目標とする。特に就職した後や進学した後に必要なビジネス、あるいはアカデミックな文章表現の基礎的な能力を養成する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	お礼やお詫びなどの気持ちを十分に表現できる。	お礼やお詫びなどの表現の形式を覚える。	お礼やお詫びなどの表現ができない。			
評価項目2	定まった書式を理解し、適切に表現できる。	定まった書式が理解できる。	定まった書式が理解できない。			
評価項目3	敬語法の基礎を理解し、適切に使用できる。	敬語法の基礎を理解できる。	敬語法の基礎が理解できない。			
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	講義形式で授業を進めるが、トレーニングシートを用いた演習を並行させる。また、日常、あるいは演劇形式により、敬語を使用する機会を設け、音声言語のトレーニングも活発に行っていく。					
授業の進め方・方法	1. 講義により、その単元の概説を行う。 2. その後、トレーニングシートの演習を行い、定着度を確認する。 3. 発展学習として、音声言語のトレーニング (対話やスピーチ) を実施する。					
注意点	日常会話でも適切な敬語の使用を求める。評価は筆記試験だけでなく、音声表現や提出物などの平常点も重視する。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション 第1章「自己紹介」	授業の概要を理解する。他人に紹介できるスキルを身につける。		
		2週	第2章「大学でのノートのとり方」	ノートのとり方を通じて、文書の書き方を理解する。		
		3週	第3章「敬語の基礎」 (前)	敬語法の基礎を理解する。		
		4週	第3章「敬語の基礎」 (後)	敬語法の基礎を理解し、適切に使いこなす。		
		5週	第4章「確実な連絡メモ」	5W3Hを意識し、伝達の基礎を学ぶ。		
		6週	第5章「メールの書き方」	公的な場で用いるメールの書き方を学ぶ。		
		7週	第6章「手紙の書き方」	お礼文と謝罪文の書き方をマスターする。		
		8週	第7章「説明のコツ」	全体から部分へという説明のコツを会得する。		
	4thQ	9週	第8～9章「大学生の調べ方」	インターネットや図書館の活用法を知る。		
		10週	第16章「履歴書の作成」	履歴書やエントリーシートの書き方を学ぶ。		
		11週	第17章「面接の受け方」	面接を実際に経験してみる。		
		12週	基礎ドリル	漢字や表現についての知識を補充する。		
		13週	まとめ・その他の文書	これまでの復習と補足		
		14週	まとめ・その他の文書	これまでの復習と補足		
		15週	まとめ・その他の文書	これまでの復習と補足		
		16週	期末試験			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べる事ができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる事ができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	

				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3		
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3		
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3		
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3		
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3		
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3		
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3		
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3		
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3		
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3		
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3		
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3		
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3		
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3		
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3		
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3		
	あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3					
	複数の情報を整理・構造化できる。	3					
	特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3					
	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3					
	グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3					
	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3					
	適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3					
	事実をもとに論理や考察を展開できる。	3					
	結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3					
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
					自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
					社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。					3		
チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。					3		
当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。					3		
チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。					3		
リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。					3		
適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。					3		
リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている。					3		
法令やルールを遵守した行動をとれる。					3		
他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。					3		
技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3						
自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3						
その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3						
キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3						
これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3						

			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げるができる。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	3	経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0